

自治 温故創新  
考える  
思いやる  
やりぬく

# まごころ

学校便り 2月号  
令和6年2月29日  
西東京市立田無第三中学校

さんちゅ・爪切りマン・温故創新

校長 東山 信彦



先日、来校していただいた先生から「HPを見ているのですが、三中の朝会が素敵ですね」とお褒めの言葉をいただきました。日頃から「集会には集団の力が現れる」と言い続けてきましたが、生徒の日常をアップしているHPを通じて、そのように言っただけは嬉しい出来事でした。

実は、私自身も、最近朝会で感慨を新たにすることがありました。ただし、それは生徒会主催の生徒朝会のできごとでした。

本校の生徒朝会は、いつも生徒会役員の準備よろしく行き届いていること、また、現生徒会長はもとより歴代の会長が、毎月時宜にかなった話をするに、感心することしきりでした。加えて、ここ最近の生徒朝会には、新しい風が感じられました。

まず、生徒会役員の取り組みです。この学年だよりでも紹介しましたが、生徒会の手によって、三中キャラクター「さんちゅ」が、9月末に誕生しました。実は、最初に担当教員より「生徒会役員が三中キャラクターを作りたいと言っている」と、相談を受けたとき、

役員の負担を考えよい返事をしませんでした。なぜなら、その代の役員は、実によくやっていて、従来の役割以外に、「三送会ミニ運動会」をはじめ、新機軸を次々と打ち出しており、定期試験の迫る中無理をして任期末に、新たなプロジェクトを発足しなくてもいいだろうと思ったからです。直談判にやってきた役員にも、そう伝えましたが、役員たちはあきらめませんでした。再度の直談判の末、生徒朝会でプロジェクト開始が告げられました。そして各クラスの提案キャラが掲示され、投票の末「さんちゅ」誕生の運びとなりました。

ただ、「やった！『さんちゅ』を生み出したぞ！めでたしめでたし。」で終わらないのが、今の三中生徒会です。この取り組みを、当代の生徒会役員が進化させ、ここにきて「さんちゅ」各種バージョンを創る取り組みが、新しい「さんちゅ」を生み出しました。一般に規模の大小はあれ、何かの取り組みを行うことは、ままたあることですが、多くは打ち上げ花火的にその時は盛り上がりますが、なかなか継続しません。私が感心したのは「さんちゅ」プロジェクトを打ち上げ花火にせず、三中に根付かせよう、大きく育てようと、相当の手間と時間をかけて、代をまたいで策を練り続け、再び三中生を巻き込んで、「さんちゅ」を進化させた、その粘り強さ・強い意志です。

また、同じ日に、保健委員会の、「ハンカチ・爪チェックコンテスト」の表彰も行われました。この取り組みも、役員会の取り組み同様、よく練られていました。まず、前回の生徒朝会でこのコンテストの周知が行われたのですが、爪切りマンの登場した寸劇による周知は、一ヵ月を経てもなお印象に残っています。この寸劇によるプレゼンの系譜は、昨年度の文化発表会の家庭科「悪徳商法防止」寸劇から始まっているのではと思われませんが、手作りの小道具も含め、何よりも演者が楽しんでいるの



が伝わってきて好感がもてました。また、表彰で副賞として渡された、黄金のティッシュBOXは、美術部の協力で、前述の新バージョン「さんちゅ」のイラストが描かれた、まさに副賞にふさわしい価値あるものでした。

生徒朝会での二例をあげましたが、年度末のここに来て、このようなおざなりでない、想像の

上をいく取り組みに出会うと、「自分たちで楽しみながら新しいものを作っていこう」という創造への意志が、「温故創新」のスローガンに重なるようで、生徒の頑張る姿に感慨を新たにしたのでした。

## 2 学年 T G G 英語体験活動

副校長 脇山 聖司

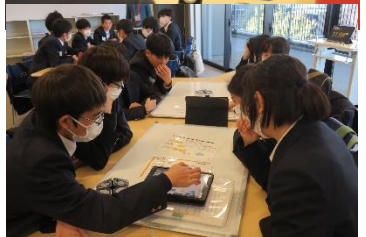
2月7日(水)にTGG(東京・グローバル・ゲートウェイ)へ体験学習に行ってきました。TGGは、すでに江東区青海にもある施設ですが、多摩地区の学校からは少し遠い場所にあります。それが、今年度から立川市に誕生しました。学校でもコミュニケーションを中心とした学習を行っていますが、外国人を相手に英語を話す機会は、ALTが入る期間のみですし、場所は学校の教室です。今回のように、校外で実践的な活動をする機会は、なかなかありません。2学年の教員は、ぜひ生徒に体験させたいとの思いからこの校外学習を計画しました。

当日は、2年生は班行動で田無駅から立川駅に行きました。都内巡りで班行動は慣れているだけあって、どの班も計画通りに目的地に着くことができました。

生徒たちは、到着して早速、グループに分かれてそれぞれの担当の外国人スタッフと対面し、最初の交流をもちました。始まってすぐは戸惑いの表情を浮かべる生徒もいましたが、徐々にリラックスし、楽しそうにコミュニケーションを取る姿が見られました。

最初の活動は、プロジェクションマッピングで部屋の壁が飲食店やホテルなどの場面が変わり、お店の人とのやり取りの活動でした。この中で、飛行機の中のシチュエーションでは、実際の航空機内のセットがあつて、より実体験に近い環境でした。次に、生徒たちはコマ送りアニメーションの作成に取り組みました。ストーリーはすでに用意されているものがあり、それをもとにアニメーションの構成を考え、作成していきました。外国人スタッフからアドバイスをもらいながら、グループで表現のアイデアを形にしていきました。英語のやり取りを進め、コミュニケーション能力だけではなく、創造力も育みました。最後に、ロボットを使ってプログラミング体験をしました。説明はもちろん英語のみです。ロボットの指令を考える活動では、論理的思考や問題解決能力を鍛えられたのではないのでしょうか。このように、ただ、英語を話すだけでなく、実際の生活に近い体験をしたり、創造したり、論理的に考えたりといった社会で必要な資質・能力も取り入れた活動がたくさんあったことが印象的でした。

半日の活動を終えて、生徒たちは、楽しかったと同時に緊張もあつたのかほっとした様子や少し疲れたような様子も見られました。ただ、どの顔も充実感にあふれていました。生徒たちの生き生きとした表情が、とてもよい体験学習になったことを物語っていました。



○三中生の活躍

どんど焼き 中学生ボランティア

バドミントン部

2月11日東京都中学校バドミントン冬季Eブロック大会  
男子ダブルス 第1位

北多摩中学校毛筆コンクール

金賞 6名



3月8日(金)に文化発表会が行われます。舞台発表(8:40~10:40)と展示発表(10:50~12:30)が行われます。どれも時間をかけて作り上げてきた作品ばかりです。今年度は、わずかな席数ですが、体育館に保護者席を設けました。

(満席の場合は立ち見となります)

また、前日16:00~19:00に、展示発表プレ公開をします。ぜひご来場ください。詳しいご案内は、28日配布の文書をご覧ください。

※上履きを御用意ください。